

万葉の里 歌碑めぐり

勾金陵墓参考地（河内王）



河内王は持統三年大宰帥として九州に赴任した皇族である。
「日本書紀」に持統八年（六九四）四月河内王に淨大肆を贈り、贈物を賜るとあるのでその少し前に現職でこの地で薨去されたという。
河内王陵墓は明治二十七年の内務省の調査で宮内庁指定一級陵墓参考地とされた。

香春 須佐神社 境内



豊国の香春は我家紐の児に
いつがり居れば香春は我家
抜氣 大首
(巻九1767)

愛する、紐児が側にいると心が和み、旅の苦勞も忘れ、まるで我が家に居るような心地がする。

鏡山大神社 参道 鳥居側



梓引き豊国の鏡山
見ず久ならば戀しけむかも
按作村主益人
(巻三311)

毎日見ている豊国の鏡山も久しく見ないでいたら恋しくなることであろう。

勾金陵墓参考地（河内王）側



石戸破る手力もがも手弱き
女にしあれば術の知らなく
手持女王
(巻三419)

み墓の石の戸を破り河内王を呼び戻したいが、か弱い女であるので、その術がない。

鏡山 伽藍松 前



王の親魄逢へや豊国の
鏡の山を宮とさだむる
手持女王
(巻三417)

なつかしいあなたの御心によほど叶ったのだらうか。あの遠い豊国の鏡の山を墓所と定めなされたのは。

万葉集：奈良時代の歌集。全20巻。
大伴家持が現存の形にまとめたと言われているが、成立年は未詳。約4500首を収める。全国各地、様々な人の歌が収められており、豊かな人間性を素朴・率直に表現した歌が多い。現存する最古の歌集。

▶ 歌碑間距離

1 → 2	750m
2 → 3	50m (徒歩道)
3 → 4	500m
4 → 5	350m
5 → 6	800m
6 → 7	1050m (徒歩道)

徒歩順路による合計距離 約3.5km

按作村主益人

「村主」は渡来系の人、豊前から都に赴いた下級官吏という説あり。詳細は不明。

抜氣大首

大宰府の役人になり香春の駅家に泊ったのか、香春の郡家の役人になったのか詳細は不明。

手持女王

河内王の妻という説あり。詳細は不明。
※詳しくは香春町史上巻参照

鏡山 鏡ヶ池 入口付近



豊国の鏡の山の石戸立て
隠りにけらし待てど来まさず
手持女王
(巻三418)

河内王は豊国の鏡山のお墓に石戸を立ててこもってしまわれたらしい。いくら待ってももう帰っては来られない。

鏡山 石鍋口



石上布留の早稲田の穂にはいせず
心のうちに戀ふるこの頃
抜氣大首
(巻九1768)

あなたへの想いは顔色に表わさないが、心のうちで恋しく思っているこの頃である。

吳 眼鏡橋横



斯くのみし戀ひし渡れば
たまぎはる
命もわれは惜しけくもなし
抜氣大首
(巻九1769)

これだけ恋しく想い続けているので、苦しくてならない。こんな苦しい想いをするくらいなら私は命も惜しいことはない。

右側・鏡山大神社の森
山際に万葉の歌碑が二基ある。
左側・宮内庁一級参考地
河内王陵墓